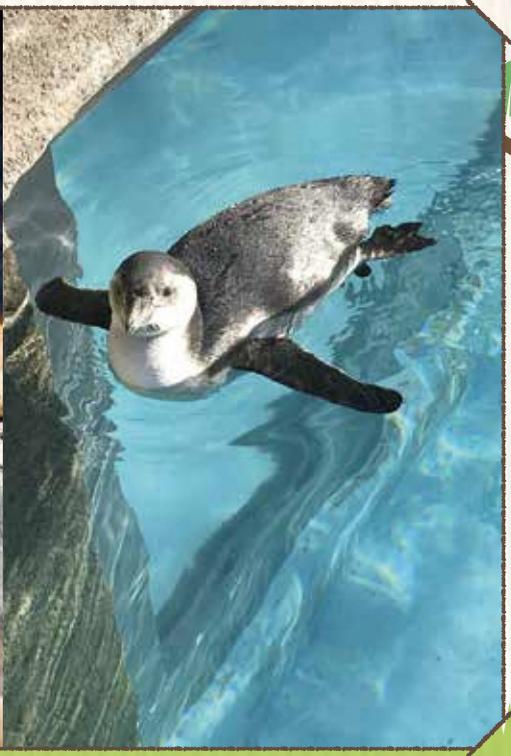


動植物園だより vol.11 [春は動物たちの出産シーズン]



今年も暖かくなるにつれて、動物の赤ちゃんの姿が見られるようになってきました。動植物園ではこの春にクロクモザル、フンボルトペンギン、肥後チャボなどが生まれました。今回は動物の赤ちゃんについて紹介します。

キリンやシマウマなどの草食獣

生まれて1時間もたたないうちに自分で立ってお母さんのおっぱいを飲みます。お母さんのおなかの中で最も成長して生まれてくる動物なのです。なぜそう進化したかという、自然界ではすぐに立たないとライオンなどの天敵に襲われてしまうからです。なかなか立たない場合はお母さんが脚で早く立つようにせかせませます。生きていくためには厳しさと優しさが必要なのです。

霊長類と呼ばれるサルの仲間

生まれるとお母さんが抱っこをしておっぱいを飲めるよう促します。そこはヒトと同じですが、赤ちゃんは生まれてすぐ自分の力でお母さんの体にしがみつきます。サルの仲間はすごい速さで移動をしたり木に登ったりするので、赤ちゃんを抱き続けることができず、しがみつくと力がなくなると落ちてしまうのです。



ライオンなどの肉食動物

生まれてすぐはとても幼く自分でエサを取ることはできません。お母さんがおっぱいを与えながら、ヨチヨチしている赤ちゃんが離れていかないように目を配っています。ライオンを襲う動物がほとんどいないため、幼い状態で生まれても生きていけるのです。

鳥の仲間

鳥の仲間でも違いがあります。ニワトリやニホンキジなどキジの仲間は卵から孵化するとすぐに歩き始めエサをついばみます。それはエサが穀物や種だからです。自分で探して食べることができるため早くから自分でエサを探します。また、ペンギンやサギの仲間などはエサが魚のため、生まれてすぐにエサを取ることはできません。巣の中で親がとってきたエサを口移しで食べて大きくなり、2か月くらいで巣立って自らエサを取るようになります。



このように、赤ちゃんの様子一つとっても、動物によって全く違うものが見えてきます。

この地球上で進化してきたのはヒトだけではなく、動物たちも子孫を残していくために進化をしてきたんですね。かわいい赤ちゃんを見ながら動物たちの力強さや進化の不思議さを感じてみてください。



副園長 松本 充史

英太郎のかたらんね(水曜日)内

熊本市広報コーナー

市コトるね!?



市政情報をテレビで発信しています

ちょっとやんちゃな男の子「マナブくん」が、さまざまな市政情報を分かりやすくお伝えします。ぜひご覧ください。

午前10時半ごろ～(5分間程度)

毎週水曜日放送

※年末年始、番組休止時除く

(広報課 ☎096-328-2043)



熊本市コールセンター 休日在宅当番医、イベント情報、区の窓口業務など、いつでもお尋ねください

午前8時～午後8時(年中無休)

さあみんな知ってるひごまる

ひごまるコール ☎096-334-1500

FAX 096-370-2002 ホームページ ひごまるコール 検索

電子メールアドレス 1500@higomaru-call.jp

公式ホームページ・SNS 最新情報をお届けします

ホームページ



フェイスブック



ツイッター



LINE



配布に関するお問い合わせ 市政だより配布センター ☎0120-666-659 [午前8時～午後8時 (土・日、祝日は除く)]

再生紙を使用しています